

<p>④ まち歩きの概略</p>	<p>※ 大宮通中立売角（ハローワーク前）に集合し頂き、続いてガイドを担当する仲治實（大文字治實）に依る聚楽第についてパネル、レジメ等を使用し歴史等、ポイントマップ順に歩きながらミニ講座を開く。解説を進め NO.1⑧⑦⑤④（22）⑥（23） NO.2（24）（25）（26）（27）（28）（28A）（29）（30）（31） NO.3 ⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳（21）まで特に注目ポイント（遺構、発掘地点、址碑、痕跡）G、ア～オ、H、M、ク～コ、カ、キ、サ～ホ地点は聚楽第ゆかりの町名及び諸侯・諸大名の屋敷址ゆかりの町名を歩き解説。参加の皆様（戦国武将好きの歴女及び男性）と共に大河ドラマを思い出しながら歴史談義に花を咲かせ頂きたい。歴史資料に関し聚楽第は僅か10年足らずの存在であったため一部の遺構等、発掘による出土品及び検証そして各地で種々所蔵されている屏風、内閣文庫及び大学所蔵の古文書類のみであり資料が少なく伝承の意味合いも深い様です。</p> <p>公式住所標記に現在も使用されている町名や通りに関し、由来も皆様に知って頂き深い歴史の流れを感じて頂きたい。</p> <p>※時間があれば西陣織会館を見学する。</p>	

聚楽第まち歩きポイント解説(南回廊編)

NO.1

	ポイント名(聚楽第所縁の町名等)	諸侯・諸大名の屋敷址	地点	旧学区	備考
⑧	聚楽第東濠跡碑		大宮通中立売上ル	聚楽	
⑦	金箔瓦出土地・聚楽第東濠跡		大宮通中立売下ル(和水町)	聚楽	現ハローワーク
			【和水町】[本丸の池からの水が流れていたという伝承が由来]		
⑤	聚楽第社碑		中立売通裏門(正親小学校)	正親	
④	土屋町の低地(西濠落込み跡)		土屋町通中立売下ル	正親	
G	信濃町	信濃守・鍋島勝茂	仁和寺街道土屋町西入ル	正親	佐賀藩藩祖鍋島直茂嫡男
ア	五番町	秀吉の旗本の組屋敷	仁和寺街道千本西入ル	正親	一番から七番まで振り分けたのが由来。
イ	四番町	秀吉の旗本の組屋敷	六軒町通中立売下ル	仁和	一番から七番まで振り分けたのが由来。
ウ	一番町	秀吉の旗本の組屋敷	七本松通中立売下ル	仁和	一番から七番まで振り分けたのが由来。
22	聚楽第番屋敷跡【二番町】		七本松通仁和寺街道南東辺	仁和	
工	二番町	秀吉の旗本の組屋敷	七本松通仁和寺街道下ル	仁和	一番から七番まで振り分けたのが由来。
才	三番町	秀吉の旗本の組屋敷	七本松通下長者町下ル	仁和	一番から七番まで振り分けたのが由来。
H	高台院町		上長者町通浄福寺東入ル	正親	
M	亀木町		裏門通上長者町下ル	正親	[本丸の庭に亀の形をした木製の噴水が由来]
⑥	発掘地点(平成13年本丸南濠の南肩を確認)		智恵光院通下長者町西北角	出水	元西田(株)店舗
23	梅雨ノ井		松屋町通下長者町上ル 東入ル上ル東側	出水	元聚楽第の井水と伝承。
ク	東辰巳町		下長者町通松屋町東入ル	出水	聚楽第の辰巳の方位に当たる。
ケ	西辰巳町		下長者町通日暮東入ル	出水	聚楽第の辰巳の方位に当たる。
コ	天秤丸町		智恵光院通下長者町下ル	出水	天秤丸址

※ポイント解説順に散策願います。

聚楽第まち歩きポイント解説(南回廊編)

NO.2

	ポイント名(聚楽第所縁の町名等)	諸侯・諸大名の屋敷址	地点	旧学区	備考
24	低地(濠跡)坤高町		裏門通下長者上ル	出水	濠は天秤工法で掘られたと伝承。
25	低地(濠跡)山本町・白銀町		裏門通下長者下ル	出水	寛政享和時代まで濠の名残ありと伝承。
26	発掘地点(濠跡を確認)		下長者通浄福寺西入ル	出水	昭和39年に濠跡を確認。
力	七番町	秀吉の旗本の組屋敷	出水通六軒町	仁和	一番から七番まで振り分けたのが由来。
キ	六番町(福島町と隣接)	秀吉の旗本の組屋敷	下長者通千本西入ル	仁和	一番から七番まで振り分けたのが由来。
サ	長谷町		浄福寺通上長者町下ル	正親	聚楽第の深山幽谷跡と伝承。
シ	二本松町		下長者通土屋町西入ル	出水	聚楽第の名残りの二本松の伝承。
ス	福島町(六番町と隣接)	左衛門大夫・福島正則	千本通下長者町下ル	出水	
セ	長門町	長門守・木村重高	下立売通六軒町西入ル	仁和	
27	木村重成邸跡(長門町)		下立売通六軒町西入ル	仁和	
ソ	稲葉町	稲葉入道一徹斎	下立売通千本西入ル	仁和	
28	低地(濠跡)田中町		土屋町通下立売上ル	出水	明治後期まで掘状の池があった。
タ	田中町	筑後守兵部大輔・田中吉政?	下立売通土屋町	出水	
28A	発掘地点(濠跡を確認)		土屋町通出水		平成12年南北方向濠の西屑を検出。
子	田村備前町(田村町と備前町が明治期合併した。) 田村備前守という人物は後付けで存在しない。		出水通智恵光院西入ル	出水	備前宰相・宇喜田秀家の屋敷址か?。
29	松林寺境内の凹地(分銅町)		新出水通智恵光院西入ル	出水	現存する顕著な濠跡(南辺の外濠、比高差4.50M)
ツ	下丸屋町	?	下立売通智恵光院西入ル	出水	
30	昌福寺の墓地(濠跡の東の境界)(分銅町)		智恵光院通下立売上ル西側	出水	濠跡がある松林寺境内と墓地が隣接している。
テ	西院町	大納言・徳川家康	智恵光院通榎木町西入ル	出水	
ト	中村町	式部少輔・中村一氏	下立売通智恵光院東入ル	出水	
ナ	分銅町		智恵光院通出水下ル	出水	天秤、秤に関連する町
ニ	金馬場町		智恵光院通出水東入ル	出水	調馬場があった。
ヌ	秤口町		日暮通出水	出水	天秤掘の入口か?
31	鶺鴒[かさざぎ]橋址(東天秤町) (聚楽第内の園池にあった鶺鴒橋の址といわれている。)		松屋町通出水上ル東側	出水	

※ポイント解説順に散策願います。

聚楽第まち歩きポイント解説(南回廊編)

NO.3

	ポイント名(聚楽第所縁の町名等)	諸侯・諸大名の屋敷址	地点	旧学区	備考
ネ	西天秤町・東天秤町		出水通松屋町	出水	
ノ	天秤町		松屋町通出水	出水	天秤堀があった。元禄12年になって初めて埋め立て
ハ	浮田町	備前宰相・宇喜田秀家	下立売通大宮西入ル	出水	
ヒ	中書町	中務大輔・脇坂安治	榎木町通大宮西入ル	出水	
フ	佐馬松町	加藤左馬之助嘉明	松屋町通丸太町下ル	出水	明治維新の際、加藤左馬之助嘉明に因んで改称。
ヘ	直家町	中納言・宇喜田直家	葎屋町通榎木町下ル	待賢	
ホ	長尾町		堀川通下立売下ル西側	待賢	越後中納言・上杉弾正景勝(長尾景勝)か？
⑬	一条戻り橋(高札あり)		一条通堀川		文禄の役、朝鮮出兵の折、肥前を目指し軍勢が通過
⑭	千宗易邸跡碑(晴明町)	千宗易	葎屋町通元誓願寺下ル	桃園	現晴明神社
⑮	村雲御所(瑞龍寺)跡碑 (関白・豊臣秀次の菩提を弔うため創建)		堀川通今出川下ル 現西陣織会館	桃園	昭和38年近江八幡市に移転。
	ポイント名(聚楽第所縁の通り)		由来		備考
⑯	土屋町通				破却後「天正地割」で新設されたと推定される通り。
⑰	裏門通		聚楽第の裏の門(西側の門)があった。		破却後「天正地割」で新設されたと推定される通り。
⑱	日暮通		豪華で精巧な装飾が施されて日没まで眺めていても飽きないことから日暮門(正門)と呼ばれていた。		破却後「天正地割」で新設されたと推定される通り。
⑲	松屋町通				破却後「天正地割」で新設されたと推定される通り。
⑳	旧大宮通(古大宮通)		築城後に現在の旧大宮通が新設された。		
21	黒門通		黒門下長者町に聚楽第の鉞(くろがね)門があった。		

※ポイント解説順に散策願います。

<聚楽第・南回廊見学ポイント説明>

※大河ドラマ（江、姫たちの戦国・天地人・功名が辻・利家とまつ）の舞台となり豊臣時代を語る場合には、避けて通れない歴史上大事な存在の聚楽第です。

※ 聚楽第が存在する時代の状況、聚楽城としての建物と破却された状況を種々解説致します。（内容は別紙レジメ参照）。

※ 発掘による解明や絵図、屏風類の説明を致します。（内容は別紙レジメ参照）。

※ 現地に残る遺構等（④土屋町通の低地）（梅雨の井）（松林寺境内凹地）（鵲〔かささぎ〕橋址）、発掘地点〔⑥（26）（28A）〕等をを説明致します。

※区画に関し北は元誓願寺通り、東は堀川通り、南は下立売通り、西は千本通りを外郭として、内郭には本丸を中心に北の丸、南二の丸、西の丸の曲輪（くるわ）が築かれたと推定され、城郭には金箔瓦が使用され濠の周囲には桜並木があり年貢として各地より桜が集められた。堀を囲む一帯には諸侯諸大名の屋敷が立ち並んでおりました。アバウトの面積は周囲1.80キロメートルと幅30メートルを超す堀が廻らされていたと伝えられております。聚楽城とも云われ城の縄張り、それを取巻く諸侯諸大名及び下級武家屋敷を含む区画に関し北は今出川通り、東は新町通り、南は丸太町通り、西は七本松通り辺りを範囲とし、公家屋敷を含む禁裏の外郭の面積に匹敵していたと推測できます。

※いよいよポイント⑦地点に向けてスタートしましょう。ポイントマップ順に歩き解説を進めます。聚楽第ゆかりの町名及び諸侯諸大名の屋敷址ゆかりの町名や通りを歩き解説いたします。御参加の皆様（戦国武将好きの歴女及び男性）と共に大河ドラマを思い出しながら歴史談義に花を咲かせ頂きたいと思ひます。

※歴史を考察するための資料は、聚楽第は僅か10年足らずの存在であったため一部の遺構等、発掘による出土品及び検証と、そして各地で種々所蔵されている屏風、内閣文庫及び大学所蔵の古文書類のみです。資料が少なく伝承の意味合いも深い様です。（内容は別紙レジメ参照）。

地域の人々の暮らしの中で例として④や大宮通、旧大宮通等に関し歴史的に若干の影響を与えております。加えて公式住所標記に現在も使用されている町名に関し、由来も皆様に知って頂き感じて頂きたいと思ひます。

1) ⑧東濠跡碑

※大宮通中立売北西角にあります。ここからスタート致します。

2) ⑦金箔瓦出土地・東濠跡

※近年中立売通り大宮下ル和水町にあるハローワークの改築に伴う発掘調査で東濠の新しい発見がありました。濠は水堀で深さ8.4メートルに達する事が判明し堀幅は20メートル以上で40メートル弱と推定され、金箔瓦が多量（約30枚）に出土し其の後国宝に指定されたとの事です。

【和水町】本丸の池からの水が流れていたという伝承が由来です。

3) ⑤聚楽第址碑

※正親小学校北側（校名の由来は正親町上皇（オオギマチ）（後陽成天皇の父）に因みます。本来聚楽小学校と命名すべきだったでしょう。

4) ④土屋町通の低地（西濠落込み跡）

※土屋町通り下立売上ル北部に続きさらに土屋町通りに沿って北は中立売通りに至り西の境の外濠を示し土屋町通と中立売通の交差点の南側及び土屋町通と仁和寺街道の交差点付近が最も低く、又土屋町通は平行する千本通よりも全体に低い傾向があり、著しく高低差（口語体で表現するとドスンと落込んでいる。）が見える地点もあります。一説によると南部では水泳の出来る地点も存在した説もあります。（この地点は平安京の旧跡と入り組んでいる説もあります。）

5) (22) 聚楽第番屋敷跡

※秀吉が旗本の屋敷を一番町～七番町まで振分けた（ア）五番町（イ）四番町（ウ）一番町を散策して頂き聚楽第番屋敷跡の二番町まで町歩きして下さい。

6) ⑥発掘地点（南濠の南肩）

※智恵光院通下長者町西北角へ移動。ビル跡地のマンション工事地点で平成13年に本丸南濠の南肩が確認されました。

7) (23) 梅雨の井

※松屋町通下長者町上ル東入ル上ル東側 東堀町の路地内の荒れ果てた空き地にあるこの井戸はもと聚楽第内の井水といわれ、この水が溢れる日をもって梅雨が明けるといわれた。元は石の井筒があって、内部は自然石で豊んだ立派な井戸だったが、20～30年前井筒が倒壊し、今は打ち込みポンプとなっている。江戸時代には京の名水の一つとして有名な井戸でありました。しかしながら近年検証の結果内堀の中に位置しております。永い歴史の流れの中、世の人々の伝承は謎そのものであります。

【以前私も実地で空き地の隅に井戸と駒札を確認、地元の手作りの案内板があり路地内に歩を進めると荒れ放題の空き地には雑な縄張りがしてあり歴史の悠久のロマンを打ち砕く現実を目の当たりにしました。再度出向くことを躊躇せざるを得ない。井戸のある土地は昔から公有地か私有地か永い歴史の流れの中どのような経緯があるのか。近年検証の結果井戸は内堀の中に位置しているというが、堀の深さは、八メートル程はあるため地下水脈とつながっていたとの事です。私見ではありますが破却後堀の埋め戻しの際井戸として活かしたのではないのでしょうか。路地の中は歴史を背負いながらも現在は生活者の息づく町であります。



8) (24) 低地（濠跡）坤高町

※裏門通下長者町上ルの低地は聚楽第の南壁に沿う濠に相当します。濠は天秤工法で掘られたと伝承され元禄 11 年（1699）に埋めたてられました。

9) (25) 低地（濠跡）山本町・白銀町

※裏門通下長者町下ルの低地は東西方向の濠跡か。寛政享和時代（1789～1803）頃まで濠の名残があったと伝承されております。

10) (26) 発掘地点（濠跡を確認）

※下長者通浄福寺西入の地点は昭和 39 年の調査で濠跡として初めて発見されました。西ノ丸の南濠に位置します。

11) (27) 木村重成邸跡 長門町

※下立売通六軒町西入ル

12) (28) 低地（濠跡）田中町

※土屋町通下立売上ルの低地。明治後期まで掘状の池があったと伝承されています。

13) (28A) 低地（濠跡）西神明町・弁天町

※土屋町通出水。平成 12 年南北方向濠の西肩が検出されました。

14) (29) 松林寺境内の凹地（分銅町）

※新出水通智恵光院西入ル。ドスンと落込んでいいる現存する顕著な濠跡（南辺の外濠、比高差 4.50M）です。天保一四年（1843）作「豊公築所聚楽城址形勝図」に「此堀跡今ナヲ存」と注記されています。下立売通の北側に面する山中油店の建物の北裏は凹地に面しております。



15) (30) 昌福寺の墓地 (濠跡の東の境界) (分銅町)

※智恵光院通下立売上ル西側。濠跡がある松林寺境内と墓地が隣接しています。

16) (31) 鵲 [かささぎ] 橋旧跡 (東天秤町)

※松屋町通出水上ル東側。南二の丸南濠に架けられた橋の跡と言われ、聚楽第内の園池にあった鵲橋の址ともいわれています。現在は松永稻荷社となっています。



⑫ 一条戻り橋

※文禄元年（一五九二）朝鮮に出兵（文禄の役）。諸国の諸将が聚楽第に参集し軍勢は堀川に架かる中立売橋、下長者橋、下立売橋を渡り東堀川通りを北上し一条通りに達し歴史的に有名な一条戻り橋を渡り敢えて回り道をして京都市内の南部より肥前名護屋めざして出征しました。

⑬ 千宗易邸跡碑

清明神社の社頭にあります。千宗易終焉の地であります。

⑭ 村雲御所 (瑞龍寺) 跡碑

※秀次の母であり秀吉の姉である端龍院日秀尼公（智）が、息子秀次の菩提を弔うために、文禄5年（1596）後陽成天皇から端龍寺の寺号と京都の村雲の地（西堀川通今出川下ル西側）を賜り創建、村雲御所と呼ばれました。西陣の地に門跡寺院の村雲御所瑞龍寺として存在しましたが、昭和38年に秀次ゆかりの地である近江八幡（八幡城址）に移転、跡地には現在西陣織会館があり、戦後も村雲御所には、度々皇族方の来訪がありました。西陣織会館の外玄関には村雲御所址を表す石碑があります。]

⑮土屋町通

※聚楽第破却後秀吉の「天正地割」で新設されたと推定される通りです。

⑯裏門通

※聚楽第破却後秀吉の「天正地割」で新設されたと推定される通りです。

この通りに聚楽第の門（西側の門）があったことに由来しております。

⑰日暮通

※聚楽第破却後秀吉の「天正地割」で新設されたと推定される通りです。

聚楽第の正門は豪華で立派であったため「日が暮れるまで眺めていてもあきない」ことから日暮門と呼ばれこの門があったこの通りの由来になりました。

⑱松屋町通

※聚楽第破却後秀吉の「天正地割」で新設されたと推定される通りです。

⑲旧大宮通（古大宮通）

※聚楽第築城後、大宮通は東に移転、通りの跡は東濠となり現在の旧大宮通が、新設されました。破却後長い歳月を経て東濠は元の大宮通（新大宮通）に戻り、現在も大宮通（新大宮通）と旧大宮通が並行して存在しております。大宮通（新大宮通）と旧大宮通間は距離が短く変則的であります。

⑳黒門通

※黒門通下長者町に聚楽第の黒い鉄門があった事に由来しております。

※時間があれば西陣織会館にもご案内申し上げます。

【見学ポイント説明に使用した参考資料及び文献】

聚楽第と北之御門町の由来とその考察並びに千両ヶ辻への変遷(大文字屋治實・仲 治實 平成 18 年編集)・京都市町内変遷史二西陣周辺・三聚楽周辺(松本利治 平成元年発行)・豊臣秀吉と京都 {聚楽第・御土居と伏見城} (日本史研究会 [森島康雄・百瀬正恒執筆] 平成一三年発行)・図説 歴史で読み解く京都の地理(正井康夫 平成一五年発行)・京都時代マップ幕末、維新編(株式会社新創社 松岡 満・平成一六年発行)・リーフレット京都No.2 1 3 {聚楽第跡[天下人の象徴]}・リーフレット京都No.2 1 4 {聚楽第を歩く} (財)京都市埋蔵文化財研究所/京都市考古資料館平成一八年一〇月発行)

【あとがき】

発掘調査に関して言及すると西陣の南辺に位置する聚楽第の跡地は時代の変遷の中、戦後西陣織の隆盛ならびに衰退を経験し欧米文化の流入もあり伝統的町家は取り壊されビルやマンション工事により建替えられ町並みを変貌していった。皮肉にもビルやマンション工事前の発掘・ボーリング調査が進み、解明されつつある現実がある。

提案者は地元の歴史に対する思いが強く、生家であり元勤務先は、聚楽第の北門があった大宮通元誓願寺角（北之御門町）で現在も生糸問屋を営んでおります。当家の庭先の庭石に関し真否の程は定かではないが聚楽第の礎石の一部であると祖父より代々言い伝えられている。当家の南隣の渤海家は、元禄九年（一六九六）より在住されており、有力な糸割符商人であった。二代目八文字屋茂兵衛 改め春吾は商才に優れ漢学者としても著名で聚楽第の北門に因んで（渤海北門）と号していた。

仲 治實（大文字屋治實）